

雲南地域連合と共催でふくしフォーラムを開催しました。

平成 29 年 8 月 5 日に雲南広域連合・広島文教女子大学の共催で、『地元の将来を考えるフォーラム Ver.ふくし「どげすーの？in 雲南 2017」』を開催しました。

本学の在学生、卒業生、雲南地域の中高生、住民の方とともに雲南地域の福祉の現状を確かめ合い、現在と未来の福祉の担い手づくりの路を拓くことを目的に開催しました。

第 1 部のフォーラムでは、「伝えたい福祉の魅力！」とし、島根県在住の卒業生 2 名と雲南市で働く介護福祉士の方に発表していただき、仕事の魅力、やりがい、葛藤など分かりやすいお話をしていただきました。

卒業生の参加者は、改めて福祉の魅力を感じ、悩みを持ち行き詰っていた人は、また明日から頑張るきっかけになりましたという感想が聞かれました。

第 2 部では、福祉の分野ごとのブースを設け、来場者の高校生も熱心に質問をしてくれました。

雲南地域に焦点を当て、福祉について地元の方、専門職として働く人間福祉学科の卒業生、在学生、教員と様々な視点から考えていきました。今後も、卒業生が多く専門職として働く島根県在住者の卒後教育と共に、福祉の魅力を伝える活動や研修会を開催していきたいです。





### <在学生より感想>

・鳥根県出身の先輩方から、就職された福祉の様子や経験などをお話していただく機会はあまりないので、とても貴重な時間になりました。実習などを通し自分自身の将来の方向性について考えている時期でもあるので、分野ごとに具体的にお話していただくことで、福祉の現場や働き方についてイメージをしやすくなったように思います。さらに、地元の現状や課題についても、あまり深く考えたことがなかったので、今後地元の福祉に携わる者として知ることができて良かったです。

・文教の人間福祉学科を卒業し、福祉の現場で働いている先輩方の話を聞くことは、とても刺激になりました。様々な職場で経験を積み重ねておられる先輩方でも日々悩みながら、学びながら働いている印象を受けました。改めて、大変さはあるけれど誰かのために働ける素敵な仕事だと思いました。たくさんの人の前で自分の仕事について話し、想いを伝えている姿はとても格好よく、私も先輩のようになりたいと強く感じ、福祉の現場で働きたいという想いが強くなりました。